資　料　１５

審議ポイント標準項目一覧

平成２２年１０月２６日
国土交通省　東北地方整備局

平成22年度　第3回事業評価監視委員会（道路）　審議ポイント標準項目一覧

事業名	NO	県	事業箇所名	供用延長／計画延長	車線数	評価対象理由	前回評価時の評価理由	前回評価年	事業化年度 都計決定又は変更年度 用地着工年度 工事着工年度	事業費（億円）						費用便益比		B/C感度分析【上段：残事業、下段：全線】						純現在価値NPV（億円）※1	経済的内部収益率EIRR ※1	H42計画交通量（台／日）		代表的な整備効果	社会情勢の変化等
										完成		暫定		（内用地費（億円））		B/C		交通量変動		事業費変動		事業期間変動				バイパス	現道		
										全線	進捗率	全線	進捗率	全線	進捗率	残事業	全線	＋10	－10	＋10	－10	＋20	－20						
道路	1	岩手45号	地域高規格 普代バイパス	0km／4.2km	2	前回再評価後3年経過	前回再評価後5年経過	H19	S63 － H6 H12	156	77%	－	－	27	96%	4.5	1.0	5.1 【1.1】	4.0 【0.9】	4.2 【0.9】	4.8 【1.1】	4.3 【0.8】	4.6 【1.1】	147 【2】	25.5% 【4.0%】	5,300	300	①三陸沿岸地域における交流・連携の促進 ②線形不良による交通隘路区間の解消 ③高次救急医療施設へのアクセス性向上	－
道路	2	岩手46号	一般二次 盛岡西バイパス	5.6km／7.8km	6	事業採択後5年経過	－	－	S59 S59 S61 S62	430	67%	351	81%	215	70%	4.9	1.8	5.3 【2.0】	4.4 【1.6】	4.5 【1.6】	5.3 【2.0】	4.4 【1.3】	5.3 【2.4】	479 【438】	15.6% 【5.7%】	31,200	－	①盛岡市街地の交通混雑緩和・交通事故減少 ②都市開発計画の支援	－
道路	3	宮城45号	一般二次 坂下拡幅	0.7km／1.2km	4	前回再評価後3年経過	前回再評価後5年経過	H18	S47 S40 S47 H5	77	88%	－	－	54	98%	2.6	1.3	3.2 【1.4】	2.2 【1.1】	2.4 【1.2】	2.9 【1.3】	2.5 【0.8】	2.7 【1.8】	15 【25】	11.9% 【4.7%】	24,500	－	①仙台市街地の国道45号における交通混雑の緩和・交通事故減少 ②歩行者・自転車の安全性の向上	－
道路	4	宮城108号	一般二次 古川東バイパス	0km／5.1km	4	前回再評価後3年経過	前回再評価後5年経過	H17	H2 H3 H7 H19	340	20%	260	26%	87	38%	2.2	1.6	2.5 【1.9】	2.1 【1.5】	2.0 【1.4】	2.4 【1.8】	2.0 【1.2】	2.3 【2.0】	244 【168】	7.2% 【5.8%】	13,600	11,000	①大崎市街地における交通混雑の緩和・交通事故減少	三次救急医療施設である大崎市民病院の移転
道路	5	岩手	高規格 東北横断自動車道秋田線（遠野～宮守）	0Km／9.0Km	2	事業採択後5年経過	－	－	H15 H8 H19 H19	237	32%	－	－	8	95%	2.4	1.6	2.7 【1.8】	2.2 【1.5】	2.2 【1.5】	2.7 【1.8】	2.3 【1.4】	2.5 【1.8】	221 【143】	11.7% 【7.0%】	13,300	1,400	①岩手県沿岸部と内陸部における交流・連携の促進 ②高次救急医療施設へのアクセス性向上 ③物流効率化による産業支援と県内港湾の利用促進 ④緊急輸送道路の信頼性確保	－
道路	6	岩手4号	一般二次 石鳥谷バイパス	1.6km／2.8km	4	都市計画後5年経過	－	－	S46 H14 － H19	27	63%	－	－	－	－	5.7	2.6	6.3 【2.9】	5.1 【2.4】	5.3 【2.4】	6.2 【2.9】	5.7 【2.5】	5.7 【2.7】	56 【54】	37.3% 【13.2%】	24,600	－	①交通混雑の緩和・交通事故減少 ②主要幹線道路としての安定的な交通確保 ③物流の定時性向上	－
道路	7	岩手4号	一般二次 渋民バイパス	2.5km／5.6km	4	前回再評価後3年経過	前回再評価後5年経過	H17	S61 H3 H2 H8	130	67%	100	87%	20	100%	3.6	1.3	4.0 【1.4】	3.3 【1.2】	3.4 【1.2】	3.9 【1.4】	3.5 【1.0】	3.7 【1.6】	117 【49】	17.4% 【5.0%】	16,900	7,400	①人家連担部における沿道環境の改善 ②交通混雑の緩和・交通事故減少 ③主要幹線道路としての安定的な交通確保	－
道路	8	岩手45号	地域高規格 尾肝要道路	0km／4.5km	2	事業採択後5年経過	－	－	H18 － H21 H21	105	19%	－	－	2.2	100%	1.6	1.3	1.7 【1.4】	1.4 【1.2】	1.4 【1.2】	1.7 【1.4】	1.5 【1.2】	1.6 【1.3】	49 【29】	7.4% 【5.6%】	3,900	400	①三陸沿岸地域における交流・連携の促進 ②線形不良による交通隘路区間の解消 ③高次救急医療施設へのアクセス性向上	－
道路	9	宮城45号	高規格 三陸縦貫自動車道本吉気仙沼道路	0km／7.1km	2	事業採択後5年経過	－	－	H18 H18 H20 H21	201	21%	－	－	54	37%	2.7	2.1	3.1 【2.4】	2.4 【1.9】	2.5 【1.9】	3.0 【2.3】	2.6 【1.9】	2.8 【2.3】	238 【197】	9.2% 【7.7%】	15,100	5,300	①高規格道路ネットワークによる三陸沿岸地域の交流・連携促進 ②災害時における緊急輸送道路の確保 ③高次救急医療施設へのアクセス性向上	－
道路	10	宮城4号	一般二次 金ヶ瀬拡幅	0km／3.7km	4	事業採択後5年経過	－	－	H16 H6 H17 H21	84	32%	－	－	28	54%	2.3	1.6	2.8 【1.9】	2.0 【1.4】	2.2 【1.5】	2.6 【1.7】	2.3 【1.5】	2.4 【1.7】	75 【49】	9.1% 【6.5%】	24,600	－	①国道4号の交通混雑緩和・交通事故減少 ②現道隘路区間の解消 ③主要幹線道路としての安定的な交通確保	－
道路	11	宮城4号	一般二次 仙台拡幅	2.8km／4.6km	6	事業採択後5年経過	－	－	H1 H6 H3 H4	243	62%	－	－	57	61%	1.6	1.3	1.7 【1.3】	1.5 【1.3】	1.4 【1.2】	1.7 【1.4】	1.4 【1.0】	1.7 【1.6】	42 【82】	6.0% 【5.2%】	70,400	－	①仙台市街地の国道4号における交通混雑緩和・交通事故減少	－

平成22年度　第3回事業評価監視委員会（港湾）　　審議ポイント標準項目一覧

【再評価】

※注1）事業費：上段は今回、下段は（前回）　　※注2）感度分析：上段は完成、下段は（残事業）

事業名	NO	県	事業箇所名	評価対象理由	前回評価時の評価理由	前回評価年	事業期間	事業費（億円）※注1）	進捗率	費用便益比 B／C 今回	費用便益比 B／C 前回	社会情勢の変化	感度分析 B／C ※注2） 需要 ＋10	需要 －10	事業費 ＋10	事業費 －10	事業期間 ＋10	事業期間 －10	純現在価値 NPV（億円）	経済的内部収益率 EIRR	貨幣換算した便益（便益の内訳及び主な根拠）	事業の効果
港湾	1	岩手	久慈港湾口地区防波堤整備事業 久慈港海岸直轄海岸保全施設整備事業	再評価後5年	―	H17	H2～H40	1,200 （1,200）	35%	1.3	1.2	特になし	1.4 （2.8）	1.1 （2.3）	1.2 （2.3）	1.3 （2.8）	1.2 （2.5）	1.3 （2.5）	280	4.8%	総便益　1,365億円 【内訳】 背後地域の浸水被害の軽減便益：668億円 海難による損失の回避便益：689億円 その他の便益（残存価値）：8億円 【主な根拠】 平成41年度想定浸水範囲：50ha	・津波による背後地域の浸水被害額の軽減 ・海難減少による船舶損失の回避 ・津波影響人口の減少、係留船舶の安全性の向上、地域産業の安定・発展（定性的効果）
港湾	2	岩手	宮古港竜神崎地区防波堤整備事業	再評価後5年	―	H17	S63～H29	205 （205）	68%	1.4	1.4	特になし	1.5 （7.3）	1.2 （6.0）	1.3 （6.0）	1.4 （7.4）	1.3 （6.5）	1.4 （6.8）	98	5.0%	総便益　363億円 【内訳】 港湾来訪者の交流機会の増加便益：356億円 滞船コストの削減便益：3億円 避難移動コストの削減便益：0.4億円 港湾施設の被災回避便益：0.8億円 その他の便益（残存価値）：2億円 【主な根拠】 平成30年度港湾来訪者：104万人／年	・賑わい空間の創出による港湾来訪者の交流機会の増加 ・静穏度向上による滞船コストの削減 ・静穏度向上による避難移動コストの削減 ・静穏度向上による港湾施設の被害回避 ・係留船舶の安全性の向上、背後地域の浸水被害の回避、港湾旅客の利用環境の改善（定性的効果）

【事後評価】

事業名	NO	県	事業箇所名	評価対象理由	事業期間 計画	事業期間 実績		事業費（億円） 計画	事業費（億円） 実績		費用便益比 B／C 計画	費用便益比 B／C 実績	事業の効果	社会情勢の変化	純現在価値 NPV（億円）	経済的内部収益率 EIRR	費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化
港湾	1	秋田	秋田港向浜地区国際物流ターミナル整備事業	完了後5年	H6～H17	H6～H17		79	74		1.5	1.2	・船舶の大型化による海上輸送コストの削減 ・ 海難による損失の回避 ・排出ガスの減少（定性的な効果）	特になし	27	5.1	取扱貨物量　計画時14.6万トン／年（H17予測）　→　実績11.6万トン／年（H21実績貨物量） 全体事業費　計画時79億円　→　事業完了時74億円 B／C　事後評価時　1.2(B:138.6億円、C:111.5億円） ※岸壁取扱貨物量　計画時17.1万トン／年（H17予測）　→　実績19.0万トン／年（H21実績貨物量）